

夫の旅立ち

夫は永眠したわけではありません、
まして、お墓には居ません、

彼は旅立ったのです 天に向かって！

溢れ出る思想を口ずさみつつ、

彼にしか書けない言葉を綴りながら。

そして今彼は、

みゆるしあらば 神の御許で

先達に迎えられ、

愛する父や母の腕の中に

憩っているのでしょうか、

地上のわたし達を見守り励ましつつ…

天かける旅路の夫に寒茜

眞生子



母 田村忠子の絵葉書

このはがきは、母が描いたものです。母は若いときから画や音楽の才能に恵まれ、当時も難関の「上野の音楽学校」（現在の東京藝術大学音楽部）に入学したのですが、アメリカの支援者が事業に失敗して学費が途切れ、やむなく中退しました。その後、婚約者に亡くなられ、さまざまな挫折を味わった後に結婚し、我々四人の男子を育てました。

まもなく平和な家庭は戦争の旋風に巻き込まれ、二人の子を出征させます。幸いに無事帰還はしたのですが、今度は戦後の混乱期を生き延びることに精一杯でした。

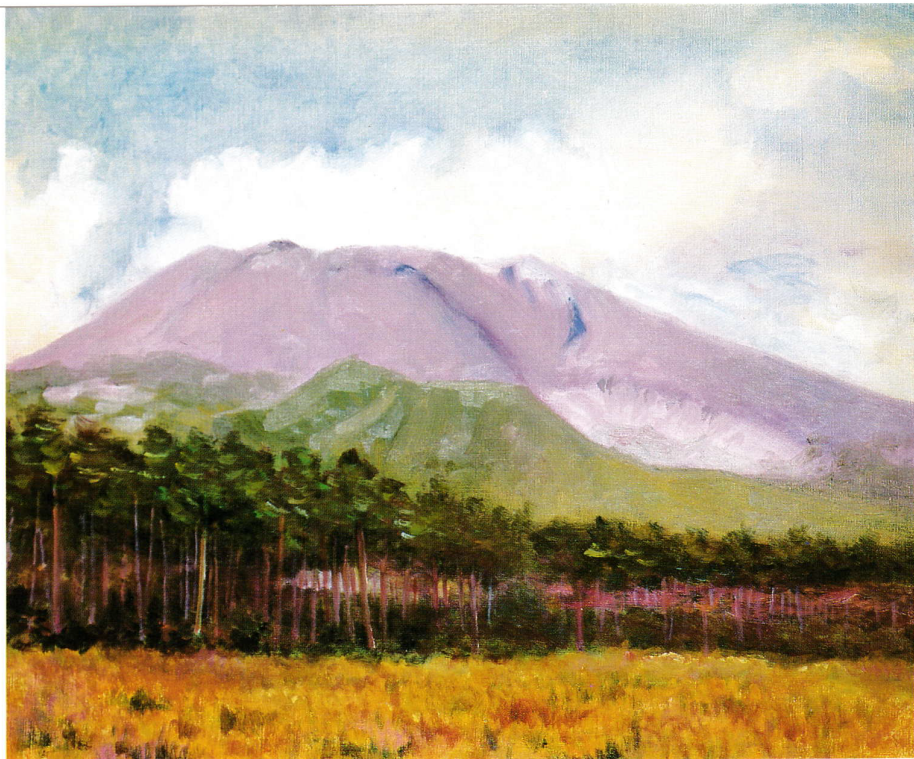
縁あって進駐軍婦人にお花を教え、その繋がりでまだ海外旅行に制限のあった時代に、単身アメリカの各地を回ってお花を教えました。

日本でもお花を教えていましたが、七十歳のとき、それだけでは飽き足らず、若いときに挫折した画を本格的に勉強しようと決心し油絵を習い始めます。花は好きですし、晩年避暑に行く信州追分で、目の前の浅間山を亡くなるまで描き続けていました。それを印刷したものが二十種ほどあります。

大わけすると、①二十歳ごろのもの、②七十歳で油絵を習い始めてからのもの、③随時のはがきなどに使った絵葉書として描いたもの、です。

ご覧いただければ、母ともども幸せです。

田村 明

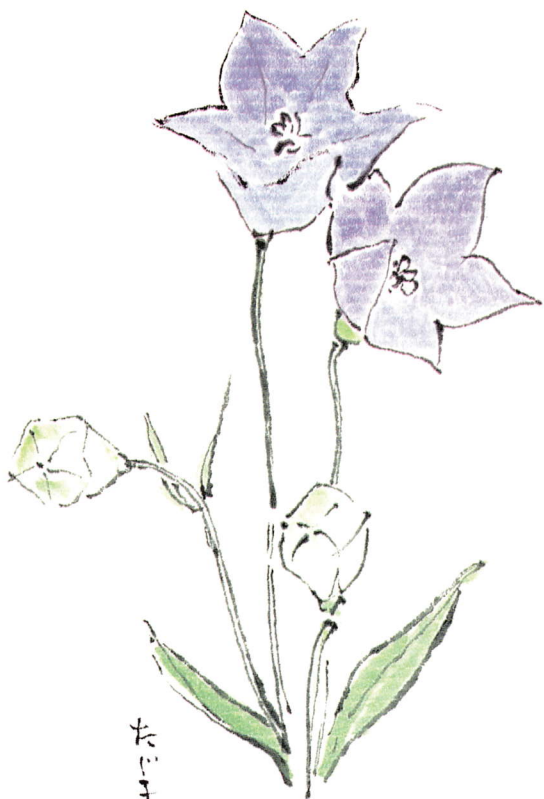




たけなす



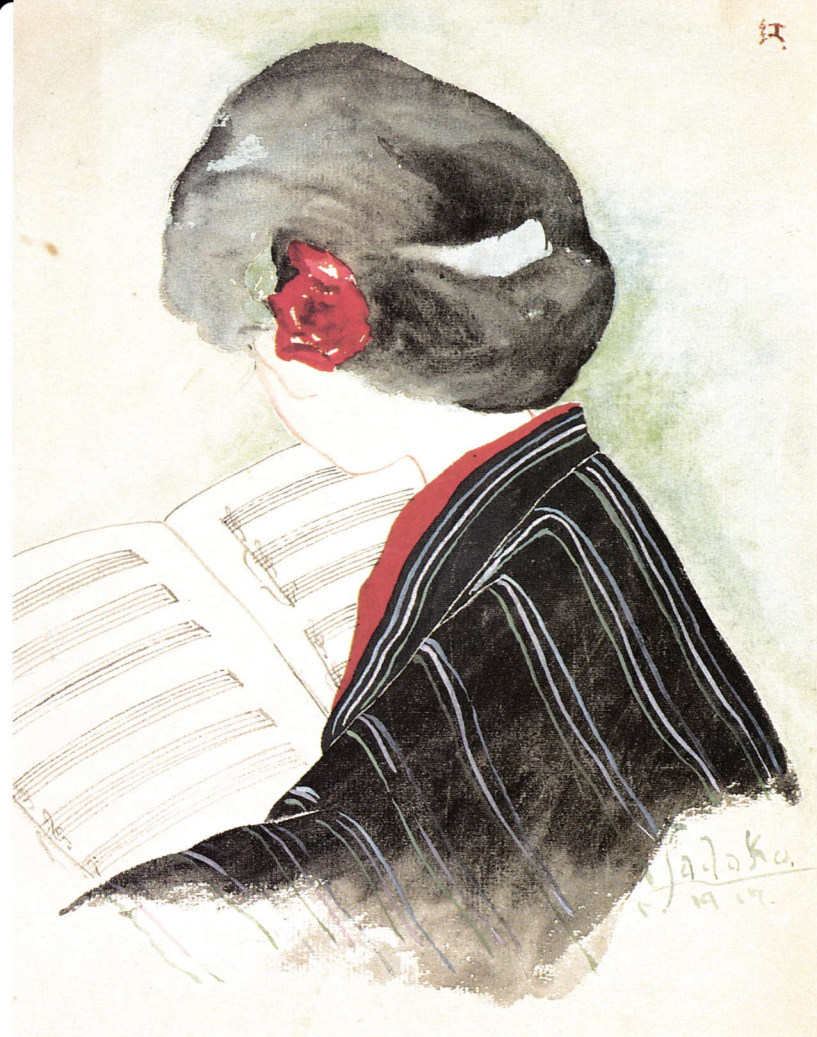
たけなす



たけなす



たけなす



たゞ子



たゞ子



たゞ子